S I N R O　D A Y O R I
進路だより

いわき光洋高等学校
進路指導部
令和5年8月7日（月）
第14号発行

厳しい暑さが続く中、課外や面談の真っ最中といったところでしょうか？そして3年生にとっては、間もなく総合型選抜の出願が始まる時期（9月1日～）になります。夏季休業を利用して、志願理由書の内容を精査し、小論文の添削等はある程度進められたかと思います。尚、当然のことではありますが、総合型選抜の準備一辺倒にはなっていませんよね？あくまで一般入試までを想定して、必要な受験科目の学習もしっかり進めることを心掛けてください。今回の進路だよりでは、総合型選抜について紹介したいと思います。3年生は当然分かっているはずですが、1･2年生の中には、よく分からないという人もいると思いますので、推薦入試との違いも含めてお話ししたいと思います。

●総合型選抜（旧ＡＯ入試）

始まった頃は学力はあまり問われませんでしたが、今では学力を問う試験や多くの課題を課す学校が増えています！

ポイント1　アドミッション･ポリシーを確認し、「意欲」「可能性」をアピール！

ポイント2　面接重視だが、学業成績基準や英語資格の重要度も高まる

総合型選抜の入学者数も年々増加傾向にあり、国公立大学では２０２３年度総合型選抜の募集人員が、８０００人を超えました。推薦入試開始の約１ヶ月前に始まるということで、公募制推薦の前にもう1度挑戦する機会があることになります。そのため今後も早期合格を目指す受験生が増えることが予想されます。

❶総合型は総合的な人物評価入試

◇学力試験だけでなく、面接・小論文や書類審査、自己PRなどで受験生の個性や適性、意欲など総合的な人物評価を行う選抜方法です。

◇**学校長の推薦を必要としない**場合が殆どです。

◇専願の大学が大半です。（併願が可能な大学もあります）

◇スケジュールは大学によって大きく異なります。（原則9月1日以降に出願受付）　尚、選抜が長期間にわたる大学（1次・2次）もあるため、その場合最終的に不合格になったときの精神的なダメージは大きいです。特に国公立の総合型選抜は、かなりの覚悟が必要です。

❷学業成績重視と英語の外部検定利用が増加

◇総合型選抜の出願条件は学校推薦型選抜と同様、学業成績、現浪、併願の可否などです。

◇学業成績の基準の上昇

難関大を除き全般に緩やかでしたが、**近年新たに基準を設けたり、基準を高くする大学が増えました。**

◇英語の外部検定（英検、TEAPなど）の成績を利用する大学の増加

2023年度に英語の外部検定を利用した大学の50％弱が「出願資格」として利用しています。

（次いで「加点」「判定優遇・合否参考」「得点換算」としての利用など）

❸選考は「書類審査＋面接」が中心

１昨年度より学力を問う内容が必ず問われることになっています。総合型選抜の選考方法は、大きく次の5つのパターンに分類されます。

①書類審査（調査書、推薦書、志望理由書など）＋面接	中堅以下の大学に多い
②書類審査＋小論文＋面接	公募制推薦と同様の形式
③書類審査＋**学力試験**＋面接	**国公立大で多い。**
④**体験授業（セミナー）**＋書類審査＋面接	**事前にセミナーを受けることが条件**
⑤エントリーシート＋面談＋書類審査＋面接	専修学校に多い形式。大学では少ない。

❹小論文は志望分野の特性も押さえる

総合型選抜では、課題論述型の小論文では「～についてあなたの意見を述べよ」などといった設問になっています。 志望学部・学科関連のテーマについて、自分の考えや意見を明確に書けるように日頃から練習を積んでおく必要があります。

	受験者	面接官
個人面接	1名	1名 2～3名
グループ面接	2～3名 4～8名	1～2名 3～4名

❺面接/面談

面談：大学の面接官と受験生が互いに質問し合い、理解を深めていくもの

面接：提出書類に基づき、大学の面接官が一方的に質問し、選考するための試験

いづれも、入学への意欲や目的、自分の将来性や可能性を十分にアピールしましょう。

❻面接は「個人」と「グループ」形式

◇通常、事前に書いた「面接カード」や出願時に提出した調査書・志望理由書に基づいて質問されます。

◇大学のアドミッション・ポリシーによる「期待する学生像」の視点を重視して審査されます。

◇口頭試問の場合は、学科・専攻関連の基礎的知識や常識、実施した小論文や学力試験について質問されます。理系の大学・学部で実施されることが多く、簡単な計算や実験、ホワイトボードを使って答えるようなものもあります。面接官は受験生の答えや作業、態度などから素質や適正、意欲を審査し、解答に至るまでのプロセスを重視します。

活動実績報告書に注意！！

今回の進路だよりでは、総合型選抜に関する情報として、志願理由書・小論文・面接の３つについての情報でしたが、実は１・２年生の皆さんに注意してもらいたいことが３つあります。それは活動報告書というものの存在です。志願理由書の中に組み込まれたものもありますし、単独で活動報告書となっている学校もあります。その内容は、①3年間でどのような学習をしてきたか（総合的な探究の時間の学習内容・課題研究は何をやったか？）②部活動への取り組み状況と実績。③どのような資格・検定を取得したか？　④ボランティア活動の有無・学校外での各種の催しへの参加状況等になります。これらは記載スペースが広く、記入することがない生徒は本当に大変です。白紙に近い状態では、まず合格は難しいでしょう。これだけ沢山の内容の記載を求められているのに、残念ながら本校の多くの生徒がそれに見合った活動をできていないという現状です。どのような型の受験を選択するかはわかりませんが、受験の選択肢を広げる意味でも、次の３つを是非実施してもらいたいと思います。＜その１＞英語技能検定は準2級合格はほぼ必須（含むGTECスコア）。更に漢字検定2級程度の合格も欲しい。＜その２＞ボランティア活動に参加する（来年も危ぶまれますが・・）またはオンラインでも構わないので、外部の催し（各大学主催または法人主催のもの）に参加する。＜その３＞総合的な探究の時間における取り組みをしっかり記録しておく。以上の３つを今から心掛けて取り組んで欲しいと思います。

本校では総合型選抜は一般入試と同じ扱いで考えています。そのためどこへでも出願することはできます。しかし、総合型選抜は非常に手間がかかりますし、生徒一人の力で準備と対策できない感じになっています。総合型選抜を出願する面々を見ると、次の３つのタイプがあるようです。①公募制推薦との2段構え　②公募制推薦に応募できる基準に満たなかったので総合型で挑戦　③指定校推薦で推薦されるか不確定なので総合型の出願の準備もしたい。ここで注意して欲しいのは、③で指定校推薦で考えている学校と総合型選抜で考えている学校が異なる場合です。指定校推薦は第一希望の学校に志願することになっていますので、自ずと総合型選抜は第２希望の学校ということになります。つまり、一般入試でいう所の、滑り止めとして総合型選抜を受ける訳です。また、①の場合で、公募制で受ける学校と総合型で受ける学校が異なる場合にも注意が必要です。やはり、推薦を受けたいという希望がある人は、その学校を追求して欲しいです。絶対にダメとは言いませんが、できれば同一の大学・学部を受験して欲しいですね。尚、一部の例外を除いて、総合型選抜の合否が判明しなければ、推薦入試は出願できません。

次回予告　**第15号は推薦入試についての注意事項についての特集になります。また、求人状況・就職試験・公務員試験についても紹介します。発行は9月中旬の予定です。。**